

滝川駅周辺地区再生整備基本計画（原案）

概要版

令和 7 年 2 月
滝 川 市

1 基本計画の目的

- 滝川駅周辺地区を新たな「滝川の顔」として再生するべく、令和5年度より滝川駅周辺整備事業に着手。旧スマイルビルを再生の拠点として整備するため、令和5年12月に全ての所有権を取得。
- 令和6年3月には、滝川駅周辺地区における将来ビジョン、実現するための整備方針を定めた「滝川駅周辺地区再生整備基本構想（以下、基本構想という。）」を策定。
- 本基本計画については、基本構想を踏まえ、具体的に整備する機能や規模、配置、事業手法、概算事業費等を検討し、基本設計の前提となる条件を整理。



2 整備計画

（１）再生拠点等（旧スマイルビル周辺及び旧小林ビル）の整備コンセプト

基本構想

将来ビジョン と 取組方針

駅
周
辺
地
区

行きたい・住みたいエリアに転換し 豊かな生活シーンを創出する
次世代を担う子ども・若者の笑顔があふれる魅力的な"まちなか"

方針1 交通結節機能を活かした交流滞在拠点の創出
方針2 居心地が良く滞在したくなる空間の形成

方針3 魅力あふれる歩きたくなるエリア転換の推進
方針4 官民協働によるまちづくり

取組の展開方針

駅
周
辺
地
区

再
生
拠
点

整
備
地
区

① “第3の居場所”となる交流滞在拠点の整備

滝川駅周辺地区の再生と賑わい創出のトリガーとなるよう
日常的な居場所として賑わう交流滞在拠点を整備。

② 低未利用物件への機能誘導

ペルロードを軸としたエリアを整備地区と位置付け、“人”
中心の空間が形成され、歩きたくなるまちづくり（ウォーカブル
なまちづくり）を推進。

再
生
拠
点
整
備
の
テ
ー
マ

- ① 日常的な居場所となる
賑わい・交流の創出
- ② 滞在したくなる空間形成
- ③ 交通結節機能の強化
- ④ 滝川の魅力発信

再生拠点等の整備コンセプト

① "私たちの居場所"づくり

- 学生による勉強やおしゃべり、親子同士の交流のほか、公共交通機関の待合やちょっとした息抜きにも利用できる居心地の良い空間をつくり、賑わいの創出を目指します。
- 滝川に培われてきた多様な市民活動やイベント、フェスティバルなどを開催できる場をつくるとともに、その場にいる人々をつなぎ、多世代による交流の創出を目指します。

いつも誰かと
“集まる”

その場所で
“ゆるくつながる”

体験して
“学ぶ・楽しむ”

② 新たな"滝川の顔"づくり

- 誰もがチャレンジ、活躍できる場をつくり、魅力の創出を目指します。
- 滝川の歴史や文化、観光資源など、まちの魅力を発信し、“駅前”のイメージ転換を目指します。

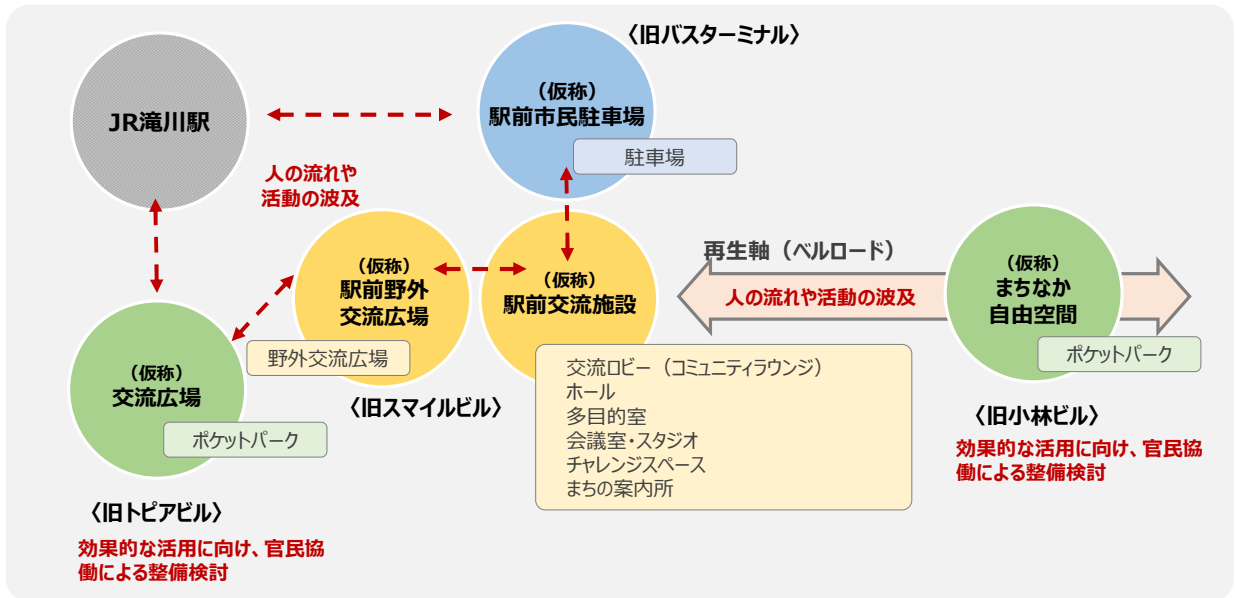
魅力づくりに
“挑む”

まちの魅力を
“感じる”

(2) 再生拠点等における機能構成と配置

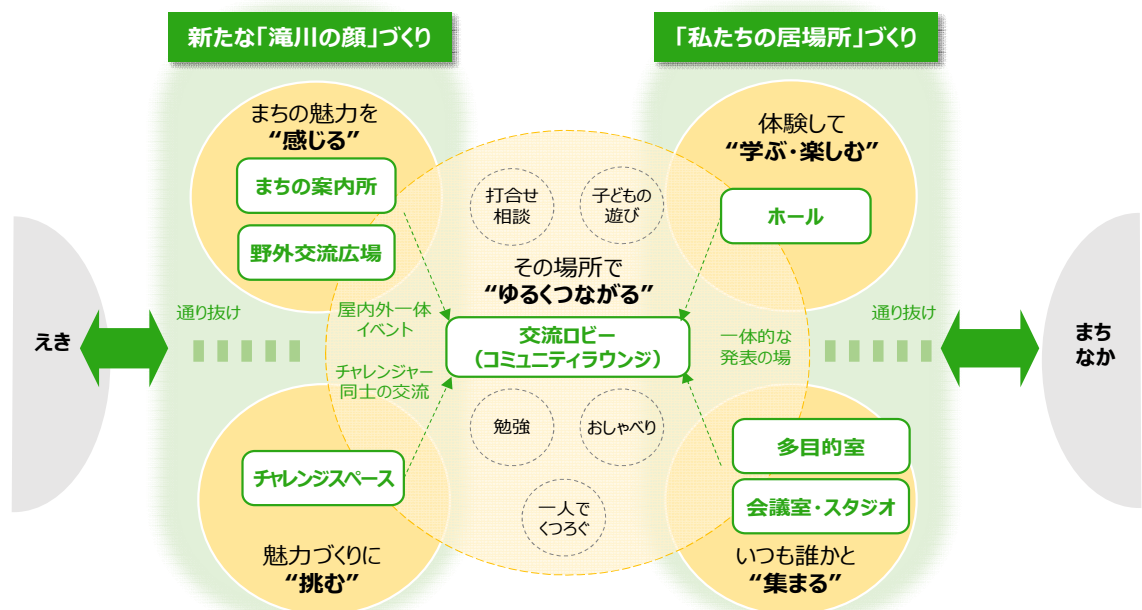
① 導入機能の構成と配置

- 賑わい交流機能となる「野外交流広場」「ポケットパーク」「多目的室」「交流ロビー（コミュニティラウンジ）」「会議室・スタジオ」「ホール」、滞在サービス機能となる「チャレンジスペース」、駅前サービス機能となる「駐車場」「まちの案内所」の全9つを導入機能とし、下図のように配置。
- JR 滝川駅を起点に、（仮称）駅前交流施設、（仮称）駅前野外交流広場、（仮称）駅前市民駐車場、（仮称）交流広場（旧トピアビル）をつなぐよう配置するとともに、再生軸（ベルロード）を通じて（仮称）まちなか自由空間（旧小林ビル）を配置することで、再生拠点や滝川駅周辺地区全体の回遊性を向上し、人の流れや活動の波及を創出。



② （仮称）駅前交流施設における機能の関係性

交流ロビー（コミュニティラウンジ）は、誰もが気軽に過ごせるフリースペースであるほか、自由に通り抜けできる場として“えき”と“まちなか”をつなぎ、また、ホールや多目的室、まちの案内所等の各機能をつなぐことで、偶然の出会いや行く楽しみを創出。



交流ロビー（コミュニティラウンジ）がそれぞれの空間・機能をつなぐ
＝偶然の出会いや行く楽しみを創出し、“私たちの居場所”へ

(3) 整備する機能・規模 ※各諸室における詳細、規模については、今後実施する設計にて検討します。

(仮称) 駅前交流施設

規模：3,800 m²

ホール

体験して
“学ぶ・楽しむ”

【多様な活動を支える多目的なホール】

- ・芸術文化活動や多様な市民活動における発表、鑑賞の場となるホール。
- ・多様な活動に対応できるよう可動式の座席を想定。また、芸術文化活動に必要な舞台空間や音響・照明設備、機材倉庫のほか、親子観覧席、身障者席（バリアフリー）を整備。

＜主な活用例＞

- ・吹奏楽、合唱、演劇等の練習、演奏会
- ・映画上映、シアター
- ・集会、講演会、コンベンション 等

規模：1,310 m²

交流ロビー（コミュニティラウンジ）

その場所で
“ゆるくつながる”

【色々な“ヒト・コト”に出会える“居場所”】

- ・多様な世代がみんなでワイワイと、また、一人で静かに、色々な“ヒト”や“コト”に出会う“居場所”となるコミュニティラウンジ。
- ・各機能と“つながる”よう諸室との動線を確保。また、未就学児が安心して遊び、保護者が見守りながら交流することができるような空間を整備。

＜主な活用例＞

- ・友人との談笑
- ・観光客の休憩
- ・作品展示（ギャラリー）
- ・勉強、仕事
- ・電車、バスの待合
- ・可動式ライブラリー 等

規模：700 m²

チャレンジスペース

魅力づくりに
“挑む”

【“駅前”の賑わいに波及する飲食・物販スペース】

- ・新たな“滝川の顔”となる施設の魅力を高め、観光客や施設利用者の快適性や利便性の向上に寄与する飲食・物販スペース。
- ・交流ロビー（コミュニティラウンジ）、野外交流広場と連携した使い方に配慮するとともに、駅周辺地区の賑わい創出に寄与するよう施設利用者のみならず外部からも利用できる動線を確保。

＜主な活用例＞

- ・カフェ
- ・売店、地元物産販売 等

規模：40 m²

まちの案内所

まちの魅力を
“感じる”

【まちの魅力を発信する拠点】

- ・滝川の観光情報や、滝川のお土産、店舗などを紹介する情報発信コーナー。
- ・交流ロビー（コミュニティラウンジ）や多目的室と連携できるよう動線を確保。

＜主な活用例＞

- ・観光案内所
- ・情報発信コーナー 等

規模：40 m²

多目的室

いつも誰かと
“集まる”

【多目的で可変性のあるフリースペース】

- ・交流ロビー（コミュニティラウンジ）や野外交流広場で過ごす人々、また、市外からの来街者が“つながる”観光交流の場となるフリースペース。
- ・平土間形式による空間とし、交流ロビー（コミュニティラウンジ）との一体利用ができるよう出入口部分を開放的に、また、天井を高くすることで開放感のある空間を整備。
- ・音楽利用も可能とするよう音響や防音性能にも配慮。

＜主な活用例＞

- ・地元物産展示
- ・ホール公演リハーサル
- ・可動式遊具によるキッズパーク
- ・パブリックビューイング 等

規模：250 m²

会議室・スタジオ

いつも誰かと
“集まる”

【使い勝手の良い活動の場】

- ・地域で活動するサークルや団体の交流の場となる会議室・スタジオスペース。
- ・施設全体の開放性や防犯性、また、利便性を高めるよう利用人数に応じて規模を調整できる間仕切り（可動式）とし、また、野外交流広場や共用部（廊下等）から室内が見えるような整備を想定。
- ・会議室については、ホール公演時に楽屋（控室）として利用できる動線、機能を整備。
- ・スタジオについては、防音性能に配慮。

＜主な活用例＞

- ・各種サークル活動
- ・音楽スタジオ
- ・セミナー
- ・楽屋、控室 等

規模：290 m²

（仮称）駅前野外交流広場

規模：2,000 m²

野外交流広場

まちの魅力を
“感じる”

【滝川の顔にふさわしい多目的広場】

- ・ 日常的な市民の憩いや遊び場、また、様々なイベントが開催される場となる屋外広場。
- ・ キッチンカーや屋台の出店、また、臨時駐車場に対応できるよう舗装、電源、給排水設備等を整備。
- ・ 緑陰を生む植栽や芝生等のほか、（仮称）駅前交流施設と連続性・一体性を生む整備とするなど、積雪寒冷地に適した広場空間を整備。

＜主な活用例＞

- ・ 親子でくつろぐ、ソリ滑り
- ・ ピアガーデンやキッチンカー等の飲食イベント
- ・ 交流ロビー（コミュニティラウンジ）や多目的室との一体利用による音楽イベント

等

（仮称）駅前市民駐車場

規模：3,100 m²

（約 100 台）

市民駐車場

いつも誰かと
“集まる”

【交通結節機能を強化する駐車場】

- ・ “まちなか”に訪れる人々の利便性や快適性、滝川駅周辺地区のアクセス性を高め、多くの人を地区内に呼び込む市民駐車場。
- ・ 平面駐車場の整備を想定。なお、料金設定等については、今後検討。

＜主な活用例＞

- ・ まちなかへの買い物
- ・ 広場や交流施設への来訪

等

（仮称）交流広場

規模：1,040 m²

ポケットパーク

魅力づくりに
“挑む”

【新たなコミュニティを育む交流スペース】

- ・ （仮称）駅前交流施設や（仮称）駅前野外交流広場と連携する、市民の新たなコミュニティの場となるポケットパーク。
- ・ コンテナハウスやキッチンカーエリア等の商業空間の整備を想定。

＜主な活用例＞

- ・ 野外交流広場と連携したイベント
- ・ ペット同伴飲食スペース
- ・ チャレンジショップ

等

（仮称）まちなか自由空間

規模：580 m²

ポケットパーク

魅力づくりに
“挑む”

【まちなか再生のきっかけとなるフリースペース】

- ・ ストリートカルチャーやアーバンスポーツなど、誰もが自由に遊べる、憩いの場となるポケットパーク。
- ・ 休憩スペースやイベント等も可能な開放的な舗装空間の整備を想定。

＜主な活用例＞

- ・ スケボー
- ・ ストリートパフォーマンス
- ・ キッチンカーイベント

等

3 事業計画

(1) 事業手法

① 想定される事業手法

想定される事業手法は、公募型サウンディング調査結果を踏まえ、「従来方式（公設公営/民営）」と「DBO方式」のほか、設計と管理運営を一括発注し、分離発注した施工業者に技術協力（VE提案）を求めることで事業費の削減効果を図る「DO+ECI方式」を対象とし、比較検討を実施。

	概要	資金調達	設計	施工	管理運営	施設所有
従来方式	- 公設公営方式は、公共が施設の設計、施工、運営、維持管理を民間事業者等と個別に契約。 - 運営については、公共が直接管理運営を行うほか、管理運営業務の一部または全部を民間事業者等に委ねる方式がある。	市	市 分離発注 設計	市 分離発注 施工	市 直営 or 指定管理 民間	市
DO+ECI方式	- DO方式は、施設の所有権は公共が保有し、資金調達も公共が行うが、施設の設計と管理運営を一括して民間事業者等に委託する方式。 - ECI方式は、実施設計段階から施工者が参画し、技術協力を行う方式。施工者の技術力を設計に活かし、設計段階から施工の事前検討が可能のためスケジュールの短縮、VE提案などによるコストの削減につながる。	市	民間 設計 技術協力 市	民間 施工 市	民間 管理運営	市
DBO方式	- DBO方式は、施設の設計、施工、管理運営を一括して民間事業者に委託する方式。 - 発注段階において、管理運営まで含めた契約条件を規定することで、施設の設計、施工、管理運営に関する責任を民間事業者とすることが可能となるとともに、民間事業者の創意工夫が発揮しやすくなり、業務の効率化が図られる。	市	民間 設計・施工・管理運営を一括発注 設計・施工・管理運営一括	民間	民間	市

② 事業手法の方向性

- （仮称）駅前交流施設、（仮称）駅前野外交流広場については、公募型サウンディング調査において、DBO方式による官民連携が望ましいとの意見があり、事業参画の意向もあったことを踏まえ、DBO方式とする。
- （仮称）駅前市民駐車場については、公募型サウンディング調査において、官民連携による事業参画の意向はなく、事業内容からも事業費削減効果が比較的小さいことが想定されることも踏まえ、従来方式（公設公営/民営）とする。
- （仮称）交流広場、（仮称）まちなか自由空間については、公募型サウンディング調査において、DBO方式による事業参画の意向はなかったが、管理運営事業に対する事業参画の意向があったことを踏まえ、従来方式（公設民営）とし、今後、市が不動産の取得、整備を進める。

(2) 概算事業費

道内の類似実績を基に建設単価を設定し、基本構想において想定した整備年次に対する物価上昇分を考慮し算定。なお、本事業に係る財源については、国の各種補助・交付金制度や地方債制度の積極的な活用を目指す。

費目	（仮称）駅前交流施設 （仮称）駅前野外交流広場	（仮称）駅前市民駐車場	（仮称）交流広場 （仮称）まちなか自由空間	備考
調査設計費	約 3.3 億円	約 0.1 億円	約 0.1 億円	
土地整備費	約 19.1 億円	約 1.7 億円	約 3.9 億円	解体関係
工事費	約 36.9 億円	約 0.7 億円	約 0.5 億円	施工関係
合計	約 59.3 億円	約 2.5 億円	約 4.5 億円	

※ 什器備品購入費、移転費は含めていません。

4 管理運営方針

(1) 基本的な方針

- 方針1 民間のノウハウを活用した魅力的な事業の推進
- 方針2 市民・市内各団体との連携による事業展開の推進
- 方針3 地元雇用の創出と人材育成の推進
- 方針4 積極的な情報発信・プロモーションの推進
- 方針5 効率的な維持管理の推進

(2) 運営事業・維持管理方針 ※詳細については、今後の検討により内容が変更なる可能性があります。

① (仮称) 駅前交流施設・(仮称) 駅前野外交流広場

- 運営事業者による自主事業の積極的な企画、実施に取り組む。
- 貸館や設備・備品の貸出等の利用促進に取り組む。
- 芸術文化活動や市民活動の活性化を推進するプログラム等との連携を検討。
- 民間事業者による飲食・物販スペースの展開等、新たにチャレンジ、活躍できる場の提供に取り組む。
- 滝川の観光案内や地元店舗等の紹介、PR等、まちの案内事業に取り組む。
- 設計・建設等の整備段階から、賑わい創出に資する各種事業の実験的な取り組みを検討。
- 目的を問わず、一人でも訪れやすい、滞在しやすいような空間づくり、環境維持に取り組む。
- 開館日や開館時間、利用区分や利用料金等について、取扱いを検討。

② (仮称) 駅前市民駐車場

- 目的に応じて容易に利用が可能となるよう管理運営に取り組む。
- 駅周辺地区内に多くの来訪者が見込まれるときは、駐車場が不足しないよう周辺駐車場との利用連携を検討。
- 利用料金や利用方法等の詳細については、駅周辺地区内における駐車場の状況等を踏まえ、取扱いを検討。

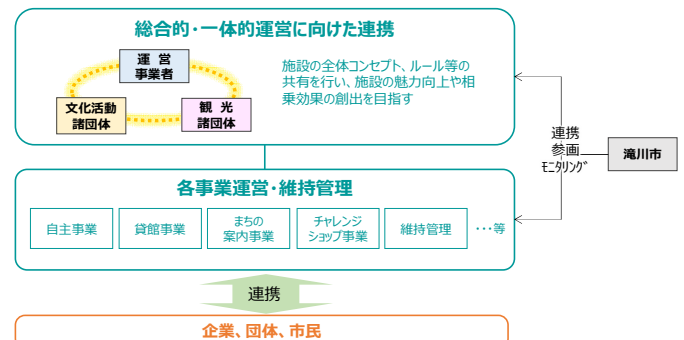
③ (仮称) 交流広場・(仮称) まちなか自由空間

- 市民が来訪し、憩い・休憩の場となるよう管理運営に取り組む。
- (仮称) 駅前交流施設や(仮称) 駅前野外交流広場と連携したイベント、交流活動の実施を検討。

(3) 運営体制方針

① (仮称) 駅前交流施設・(仮称) 駅前野外交流広場

- 各関係者の連携を推進するための体制を検討し、施設の全体コンセプト、ルール等の共有を図る中で施設の魅力向上や相乗効果の創出を目指す。



- 運営事業者と施設に関わりを持つ諸団体との連携のほか、市民も交えた連携、協働できる環境づくりを検討。

市民参加のパターン	イメージ
鑑賞者・利用者・参加者として参加	・公演を見に行く ・参加・体験型イベントに参加する ・施設を借りて活動を行う
サポートスタッフとして参加	・運営や事業において、時間のあるときにやれることを手伝う
出演者・指導者として参加	・（仮称）駅前交流施設が行う公演の出演者や講座の指導者等になる
事業の企画・推進役として参加	・事業の一部を企画・提案し、交渉や広報などにも関わる ・他の団体等と協働し、市民活動や文化・芸術の振興につながる事業を行う
事業パートナーとして参加	・市や運営者の協働相手として、運営の一部を担う ・NPO等を作って運営事業者のパートナーとなる

②（仮称）駅前市民駐車場

- 市の直営による運営体制のほか、指定管理者制度等の活用による（仮称）駅前交流施設・（仮称）駅前野外交流広場との一体的な運営体制も検討。

③（仮称）交流広場・（仮称）まちなか自由空間

- 指定管理者制度の活用を基本に運営体制を検討。

（４）運営費・維持管理費に関する方針

- 施設運営に係る費用については、様々な市民活動や芸術文化活動の場、情報発信の拠点としての機能を適正に維持していくため、次世代に発展的に継承していく長期的な視点も踏まえつつ、必要経費の確保に取り組む。
- 一方、運営事業者においても、民間ノウハウを生かし、様々な自主事業や収益事業の展開、施設稼働率の向上等に取り組み、最大限の収入確保を図るとともに、長期的に安定する効率的な維持管理に取り組み、管理コストの低減に努める。

5 事業スケジュール

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目
（仮称）駅前交流施設 （旧スマイルビル）	要求水準確定、事業者選定	設計 解体設計	解体工事	建設工事		供用開始（一部） 外構工事 広場造成工事 供用（運営）開始
（仮称）駅前野外交流広場 （旧スマイルビル）						
開業準備	整備PR・啓蒙啓発	機運醸成・実験的取組	施設設置条例の制定	機運醸成・運営体制の検討	開業準備（運営実施計画作成、スタッフ採用・研修、広報活動、利用受付、開館セミナー・内覧会実施等）	
（仮称）駅前市民駐車場 （旧中央バスターミナル）	不動産取得			解体設計 設計 施設設置条例の制定	解体工事	駐車場造成工事 供用（運営）開始
（仮称）交流広場 （旧トピアビル）	不動産取得	解体設計 設計	解体工事 広場造成工事 運営事業者の決定／開業準備	供用（運営）開始		
（仮称）まちなか自由空間 （旧小林ビル）		解体設計 設計	解体工事 広場造成工事 運営事業者の決定／開業準備	供用（運営）開始		

滝川駅周辺地区再生整備基本計画（原案）

概要版

令和 7 年 2 月

滝川市

〒073-8686

滝川市大町 1 丁目 2 番 1 5 号 滝川市役所 6 階

TEL : 0125-74-4018（直通）

※ 滝川駅周辺地区再生整備基本計画については、令和 7 年 1 月 20 日の政策決定において、滝川駅周辺地区再生整備事業を一旦停止したことから、原案に留め、令和 6 年度末の策定を見送ることとしました。
なお、事業再開時には、必要に応じて本原案の見直し検討や各種手続きを実施した上で、策定を目指すこととします。